

## 研究会開催通知

(昭和52年1月15日～2月28日)

研究会	日	時	会場	備考
イメージ・プロセッシング	1月17日(月)	14:00～17:00	京都大学	前号参照
設計自動化	1月20日(木)	14:00～17:00	機械振興会館	同上
コンピュータ・ネットワーク	1月24日(月)	13:00～17:00	大阪貿易センター	下記参照
マン・マシン・システム	1月25日(火)	14:00～17:00	機械振興会館	同上
システム性能評価	1月28日(金)	10:00～16:00	京都大学	前号参照
計算機アーキテクチャ・マイクロコンピュータ	1月28日(金)	9:00～17:00	機械振興会館	下記参照
医療情報処理	2月9日(水)	14:00～17:00	機械振興会館	同上

### ◆ 第9回 コンピュータ・ネットワーク研究会

(主査: 猪瀬 博, 代表幹事: 浅野正一郎)

- 日時 昭和52年1月24日(月) 午後1時～5時  
会場 大阪貿易センター 会議室  
〔大阪市北区玉江町 2-2, 大阪駅より大阪市バス大阪港行または舟津橋行(53番線, 特53番線) 堂島大橋国際貿易センタービル前下車, Tel. (06) 448-6631〕
- 議題 (1), (2), (3), (4) は前号参照  
(5) ミニコンピュータ複合体のオペレーティング・システム  
酒元登志克, 藤井 護他 (阪大) (岡山大)  
(6) コンピュータ・ネットにおける最適経路制御方式  
小松雅治, 手塚慶一他 (阪大)

### ◆ 第16回 マン・マシン・システム研究会

(主査: 大須賀節雄, 代表幹事: 飯田善久)

- 日時 52年1月25日(火) 午後2時～5時  
会場 機械振興会館 6階67号室  
〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町駅, 都営1号線大門駅, 都営6号線御成門駅下車, 国電: 浜松町駅下車, バス: 新橋一汐谷線東京タワー, 等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, Tel. (03) 434-8211〕
- 議題 (1) キャラクターディスプレイ用画像の会話形作成・データ構造付加システム  
深川幸紀, 矢嶋虎夫, 中山泰雄, 吉田 将 (九州工大)  
森本義広 (八代工専)
- 〔概要〕 キャラクターディスプレイ装置の画面を形成するデータ(すなわち画面)を, ディスプレイ装置を使用して, 会話形で作成し, またフ

ファイルに登録し、既登録画面データの変更を行い、画面データ登録ファイルの全管理を会話形で行うシステムに関するものと、既に登録された画面データにデータ構造を付加し、このデータ構造とディスプレイからの入力に応じて自動的に画面表示を次々に行うシステムに関するものである。

(2) 語彙量予測法について

松岡 潤，絹川博之，筒井健嗣，尾本 健（日立・システム開発研）

〔概要〕 語類（言葉，漢字，姓など）の機械辞書作成に要する作業量の基本数値となる語彙調査必要データ量を予測する一方法の提案をのべる。

(3) 配管設計におけるコンピュータグラフィックスの一例

平野哲雄（三井造船）

〔概要〕 化学プラント等の配管設計の統一化を目的にしたミニコンピュータベースのグラフィックシステム。

## ◆ 第16回 計算機アーキテクチャ・マイクロコンピュータ研究会

（主査：相磯秀夫，代表幹事：所真理雄）

日時 52年1月28日（金）午前9時～午後5時  
会場 機械振興会館 地下3階研修1号室〔所在地は前記参照〕  
議題 今回の計算機アーキテクチャ・マイクロコンピュータ研究会は、電子通信学会との共催で並列処理マルチプロセッシングシステムを中心とした特集研究会を企画した。

(1) 〔招待公演〕 ソフトウェアから見たマルチプロセッシングシステム

和田英一（東大・理）

〔概要〕 ソフトウェアの観点からマルチプロセッサ・マルチプロセッシングシステムを捉え、その動向および問題点を概説する。

(2) マイクロプログラム制御計算機 QA-1 の並列処理方式

小柳 滋，柴山 潔，富田真治，萩原 宏（京大・工）

〔概要〕 新たに開発されたマイクロプログラム制御計算機 QA-1 における並列処理方式とその実例について報告する。

(3) 機能分散型計算機複合体のパイロットモデル (R-PPS)

村上国男，西川清史，佐藤昌貞（日電・武蔵野通研）

〔概要〕 現行の汎用大型情報処理システムの持つ機能を、6クラスの極めて密に結合された小型プロセッサに分散して実行する計算機複合体について報告する。

(4) ACE 1.1 システムとその基本 OS

藤井狷介，飯塚 肇，古谷立美（電総研）

〔概要〕 モジュール構造複合計算機 ACE 1.1 システムの構成とマイクロプログラムの開発をサポートするその基本 OS の方式設計について述べる。

(5) マルチプロセッサシステム MICS-II のシステムコントロール

山崎竹視, 大森健児, 小池誠彦, 大宮哲夫, 出来哲史郎  
(日電・中研)

〔概要〕 MICS-II の設計思想・仮想メモリ, 共通 I/O システム, プロセッサ間通信について紹介する.

(6) マルチマイクロプロセッサシステム HARPS: 概要と汎用ファームウェアシステム  
津田孝夫, 田中 譲 (北大)

〔概要〕 アーキテクチャの概要, 設計の理念, 汎用ファームウェアシステム (MOSES) の概要.

(7) マルチマイクロプロセッサシステム HARPS: データベースマシンおよびその他の応用  
田中 譲, 田畑隆士, 津田孝夫 (北大)

〔概要〕 応用各論, 特にデータ・ベース・マシンに関して.

(8) 磁気バブルによるデータ・ベース・マシンの構想  
植村俊亮, 弓場敏嗣, 古川康一, 国分明男, 大表良一, 菅原保雄 (電総研)

〔概要〕 大型プロジェクトの一環として開発を計画中の磁気バブルによるデータ・ベース・マシンの基本構想を報告する.

(9) ハードウェアソートによるデータ・ベース基本演算の高速化について  
有澤 博, 土肥康孝 (横浜国大)

〔概要〕 データ・ベース集合演算を高速化する手段として, メモリブロックごとにセルフ・ソート機能をもたせた専用プロセッサのアーキテクチャを提案する.

(10) 2次元記憶を用いた連想処理システム  
元岡 達, 田中英彦, 上森 明, 鈴木達郎 (東大)

〔概要〕 2次元記憶と 16 台のマイクロプロセッサから成る連想処理システムの構成と処理機能について報告する.

(11) 新しい可変構造プロセッサアレイ—ETLANMA  
岡田義邦, 田島裕昭, 森 亮一 (電総研)

〔概要〕 可変語長, 対数構造転送, 二重マイクロ命令等の特徴を有する並列処理プロセッサ試作システムについて報告する.

## ◆ 第 14 回 医療情報処理研究会

(主査: 開原成允, 代表幹事: 吉本千禎, 飯坂譲二, 上野晴樹, 佐々木陽)

日 時 52年2月9日(水)午後2時~5時  
会 場 機械振興会館 6階67号室〔所在地は前記参照〕  
議 題 日本の病院情報システム (I)

最近の日本の病院情報システムを技術観点から紹介し, 特にデータ・ベース管理の問題を中心に論じる.

(1) 東京都立駒込病院総合オンラインにおけるファイル構成について  
熊井 徹 (都立駒込病院), 大野 治 (フェコムハイタック)

(2) 関東通信病院のシステム  
倉田由次 (関東通信病院)

(3) 日赤中央病院のシステム  
藤縄 潤 (日赤中央病院)

## 欧文誌の原稿募集について

前号で予告いたしましたとおり、来年1月に欧文誌を創刊いたします。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

### 記

#### 1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

#### 2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ，A4版

(2) 純学研究発表誌とし，Paper と Short Note より構成する。

(i) Paper (原則として8ページ以内)

「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき，欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限る)

「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて，採録を認められた欧文による小論文。

#### 3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

#### 4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4版(21cm×30cm)の白紙を使い，1行65ストローク，ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し，パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で，欧文誌刷上り8ページに当る。

(2) 査読の都合上，タイトル，氏名，所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは次による。

(i) Paper のアブストラクト——「情報処理」1ページ以内に収まるよう学会誌原稿用紙312字/ページ×6枚以内にまとめる。

(ii) Short Note のアブストラクト——200字以内にまとめる。

(3) 図，表(写真を含む)は，完成図(そのまま補筆しないで製版できるもの)を本文とは別にし，説明文は別紙にまとめてタイプし，本文の末尾につける。

#### 5. 原稿の送付

(1) オリジナル原稿とコピー1部，計2部を送付する。

(2) 送付先：情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

## 「コンピュータ・システムの高信頼化」の発行について(お詫び)

前号本欄で案内しました「コンピュータ・システムの高信頼化」の発行は大分おくれて、1月末の予定です。従いまして、会員特価を会員定価に改め、当分の間5,000円といたしますのでご了承ください。

なお、郵送料については2冊以上の既申込者中かなり誤解を生じている向きがありますので、1冊ごとに300円と訂正いたします。

## 会員名簿の発行について

「昭和51年度情報処理学会会員名簿」は1月末に発行の運びとなりましたので、予約者には出来しだい送付いたします。

なお、予約申込者で**代金が未納**となっている方は至急ご納入ください。